

Gakken KEYBOOK Beginners

循環器画像診断 一問一答

心臓 CT・MRI・核医学の読影に役立つ基礎知識

編著：加藤真吾（横浜市立大学大学院医学研究科放射線診断学）



発行：Gakken

2025 年 4 月刊行
A5 判・296 ページ
本体：6,000 円 + 税 10%
(定価 6,600 円)

循環器疾患の画像診断といわれたら、どのようなものを思い描くでしょうか？ 十数年前、私が医師になった頃と今では、その様相が大きく異なり、治療分野の広がりとともに目覚ましい進歩を遂げています。画像を正確に読み、その先のステップにつなげていく力が不可欠です。しかし、それらを網羅する本は自分が知る限り存在せず、各分野に関する本、論文、研究会や学会、ガイドラインなどから勉強するよりほかない状況でした。まさにそれを解決してくれるのが、この1冊というわけです。

内容について少し掘り下げていくと、第1章では画像診断に必要な解剖を正しく理解することを目的とし、主に医学生や研修医、専攻医向けに、ベーシックな知識の確認をしてくれます。

第2章ではCTにフォーカスして、感覚的に理解していた部分を正確に学び直すことができます。私は不整脈分野が専門ですが、心房細動や心臓再同期療法に関する項では、アブレーションや左室リード留置のために理解すべき解剖や、実際にCTで何をみてどう判断するかなど、実臨床に即した内容が丁寧に解説されている点に非常に感銘を受けました。その他、先天性心疾患の診断、弁膜症のイ

ンターベンションに必要な知識、救急診療に欠かせない大動脈疾患の診断・術前後の読影ポイントなど、各分野でご活躍されている先生方による最先端の知識がふんだんに盛り込まれています。

第3章 MRIでは、基本のシーケンスから心筋マッピングなどの追加法まで、撮像に関する基礎知識が簡潔にまとめられています。それに続く各論では、急性心筋梗塞に特徴的な心筋浮腫や予後不良のサイン、遅延造影効果の読み方、心筋症の鑑別ポイントなど、苦手意識のある心臓MRIが得意になる(?)ほど、シェーマや多彩なサンプル画像でわかりやすく解説されています。アーチファクトに関する項は、真の異常所見と迷う場面で非常に助けられます。

第4章では、核医学検査に関して知識のブラッシュアップができ、注目のATTR心アミロイドosisに関しても言及されています。

伝えきれないほど十分すぎる濃密さですが、読みものとして決して堅苦しくないところもまた、お勧めのポイントです。一問一答形式なので、Questionに対するAnswerがまず端的に記載され、それに続く本文で詳しく解説するスタイルになっており、読み進めても疲れることがありません。また、前述のとおり、良い意味で本のサイズに見合わないほどの画像量であり、目の前の患者さんの画像と比較しながら、key画像を読み返すことも簡単にできます。総じて、ダブルライセンスをもっておられる加藤真吾先生らしい唯一無二の視点が随所に感じられる内容であり、医学生から研修医、専攻医、循環器・心臓外科専門医に至るすべての医師、コメディカルの方々に、是非手に取っていただきたい教本です。

このような素晴らしい書物をご執筆された加藤真吾先生をはじめ、携わった多くの共著者の皆様に、心より感謝の意を表したいと思います。

神奈川県立循環器呼吸器病センター循環器内科 医長
鍵本美奈子